

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
国際医療看護福祉大学校		平成13年12月11日		佐藤 本実		〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-19 (電話) 024-956-0160																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人国際総合学園		平成7年3月24日		池田 祥護		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
医療	医療専門課程	救急救命士科		平成17年文部科学省告示第30号	-																				
学科の目的	救急医療の現場で活躍できる高い資質を兼ね備えた救急救命士を養成するため、高度な救急処置について体系的に学ぶ。さらには、的確な判断力、患者やその家族に対する心理的配慮に長けた感受性を磨き、救急医療の現場で起こる様々な問題に柔軟に対処できる問題解決能力を育成する。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	2年 昼間							1995時間	870時間	0時間	1125時間	0時間	0時間												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人		50人	0人	4人	6人	11人																			
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期考査と素素の学習状況を総合し、4段階評価とする。表示はA・B・C・Dとし、Dは不合格。																				
長期休み	■学年始:4月1日~4月7日 ■夏季:8月1日~8月31日 ■冬季:12月25日~1月7日 ■学年末:3月25日~3月31日			卒業・進級条件	卒業条件は、学則の全科目の単位を履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位を履修。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 特になし  ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 郡山地方広域消防組合消防本部、いわき市消防本部、白河地方広域市町村圏消防本部、天童市消防本部、上山市消防本部、東京消防庁Ⅲ類、			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、公務員試験対策(教養試験、作文等の対策)、卒業した未内定者への就職支援等 ■卒業生数 23 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 21 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91.3 % ■その他 ・公務員受験予備校通学: 2人  (令和 2 年度卒業者に関する令和3年5月1日 時点の情報)				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急救命士国家試験</td> <td>②</td> <td>23人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	救急救命士国家試験	②	23人	20人										
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
救急救命士国家試験	②	23人	20人																						
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年4月1日時点において、在学者51名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者50名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため			■中退率 2.0 %																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 「無利子奨学制度」年額30万円を無利子で貸し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。																								
	■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.i-medical.jp/">http://www.i-medical.jp/</a>																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

救急救命士の育成において、救急救命士法を鑑みつつ、救急救命の現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域医療に貢献できる救急救命士を育成するため、全国の消防機関並びに病院側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、消防機関や医療機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上遠野 裕深	仙南地方広域行政事業組合消防本部	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③
立岡 伸章	弘前医療福祉大学 短期学部 救急救命学科	令和2年4月1日～令和3年3月31日	②
渡部 隼	南会津地方広域市町村圏組合消防本部	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③
山内 一	新潟医療福祉大学 救急救命学科	令和2年4月1日～令和3年3月31日	②
岸田 全人	埼玉医科大学 国際医療センター 救命救急科	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③
佐藤 武諭毅	株式会社ファーストエマージェンシー	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学 教務部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
横山 亜矢	国際医療看護福祉大学 救急救命士科学科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回  
第1回開催時期…7～8月、第2回開催時期…1月～2月  
(開催日時)  
令和2年度 第1回 令和2年8月6日 15:30～17:00  
令和2年度 第2回 令和3年3月19日 15:30～17:00  
令和3年度 第1回 令和3年7月21日 13:30～15:00  
令和3年度 第2回 令和4年2月10日 11:00～12:30 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

当該委員会において、前年度の国家試験の合格率が低調に終わったことを受け、国家試験対策と公務員試験対策、両方の対策を行っていることに関して、国家試験対策にもっと時間を割くべきであるとの意見をいただいた。前年度は、国家試験受験日の直前まで公務員試験を受験している学生もいたため、委員からのアドバイスを受け、国家試験直前の対策授業期間中には公務員試験の受験に関するフォローは行わないなど、国家試験の学習に集中できるような配慮をさらに強化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して救急救命の現場で求められる専門的知識や技術のみならず、患者はもちろん、患者やその家族に対する心理的配慮に長けた感受性を磨くことを目的とする。更に救急医療の現場で起こる様々な問題に柔軟に対処できる確かな判断力と問題解決能力を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深め、救急医療システムを理解する。	八戸市立市民病院、石巻赤十字病院、山形大学医学部附属病院、会津中央病院、埼玉医科大学国際医療センター等
救急用自動車同乗実習	消防署内での活動を体感することで、消防機関における社会的役割と救急救命士の果たすべき役割を学ぶ。	伊達地方消防組合消防本部、安達地方広域行政組合消防本部、仙台市消防局、天童市消防本部、上山市消防本部等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通して医療・福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。各教員の専攻分野における実務に関する研修については教務部の年度ごとの計画に沿って、指導力の修得・向上に関する研修については各教員の契約形態や勤続年数に応じて、定期的・計画的な研修を受講させている。

(2) 研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
・令和2年8月 救急救命士の利活用・VRを使用した実習について(一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会主催)	
	対象:横山, VRを活用した実習の活用について, 期間1日
・令和3年2月 コロナウイルス対応研修(一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会主催)	
	対象:横山, コロナウイルスへの対応について, 期間1日
②指導力の修得・向上のための研修等	
・令和2年6月 入学段階からの学習支援について(株式会社ナガセ主催)	
	対象:横山, リメディアル教育に関する研修, 期間1日
・令和2年10月 昇格基準研修(NSG人財開発部主催)	
	対象:横山・阿部, 昇格に関する中堅職員向け研修, 期間1日
・令和2年11月 NSGネクスト(人財開発部主催)	
	対象:高橋, 入社3年以内の職員向け研修, 期間1日
※対象は全員、救急救命士科教員	
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
・令和3年5月 ドローン講習(一般社団法人福島新未来総合研究所主催)	
	対象:横山, 渡辺, ドローン操作の知識・技術習得セミナー, 期間2日
・令和3年6月 救急救命士職域拡大に伴う事前研修会(一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会主催)	
	対象:横山, 救急救命士職域拡大に関する研修, 期間1日
※対象は全員、救急救命士科教員	
②指導力の修得・向上のための研修等	
・令和3年4月 新入職員研修(人財開発部主催)	
	対象:高橋, 新入職員向け研修, 期間1日
・令和3年6月 考課者研修会(人材開発部主催)	
	対象:横山, 新たに考課者となる者を対象とした研修, 期間1日
・令和3年7月 新任教員フォローアップ研修(人財開発部主催)	
	対象:高橋, 新入職員向け学生指導に関する研修, 期間1日
・令和3年8月 スクールカウンセラーから学ぶ、最近の若者の傾向と教員としての対応法(事業管理部主催)	
	対象:横山・阿部, 最近の若者の傾向と教員の対処法について, 期間1日
・令和3年8月 PCスキルアップ～基礎編～(事業管理部主催)	
	対象:高橋, Officeソフトの基本操作に関する研修, 期間1日
※対象は全員、救急救命士科教員	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めている。委員からはコロナ禍により遠隔授業を行う際の自宅のWi-Fi環境問題について意見があり、保護者への理解を図ると共に対応できていない学生への代替えで受講できる方策を用いて、教育レベルを維持させながら国家試験に向けた学習を提供できた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2021年7月30日現在

名前	所属	任期	種別
片岡 則之	日本大学 機械工学科	2020年4月1日～2023年3月31日	教育関係
清水 一浩	東北健康福祉株式会社	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
窪 睦子	総合南東北病院	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
遠藤 次男	仙南地域広域行政事務組合消防本部	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
佐藤 武諭毅	(株)フォーストエマージェンシー	2020年4月1日～2023年3月31日	校友会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

・自校の元校長、卒業生、病院事務長、実習先看護部長、高等学校元校長

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(学校案内、DM等の印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進) )

URL: <http://www.i-medical.jp/> ※2021年8月に上記内容にて公表した。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2) 各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3) 教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6) 学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7) 学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8) 学校の財務	収支決算書
(9) 学校評価	自己点検評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11) その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.i-medical.jp/> ※ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(学校案内、DM他印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進している)

授業科目等の概要

(医療専門課程救急救命士科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			倫理学	医療従事者に求められている基本的な倫理観を養う。	1 年前期	30	2	○			○		○		
○			コミュニケーション学	専門士、救急救命士としての一般教養を身につけ、面接対応能力を身につける。	1 年前期	30	2	○			○		○		
○			情報処理	ワードはWord検定3級合格を目指し、基本操作と活用力を身につける。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			資料読解	グラフや表を読み取り、理解できるようにする。	2 年前期	30	2	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅰ	救急現場において人体の構造異常を迅速に判断するために、正常な構造と機能が基となる病気の成り立ちを理解できるようにする。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅱ	救急現場において人体の構造異常を迅速に判断するために、正常な構造と機能が基となる病気の成り立ちを理解できるようにする。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			疾患の成り立ち	病気を正しく認識するうえで重要な知識を学ぶ。	1 年前期	60	4	○			○			○	
○			健康と社会保障	救急活動において必要な法律および社会保障を学ぶ。	2 年 通 年	30	2	○			○			○	
○			救急医学概論Ⅰ	救急救命士として医の倫理・生命倫理を理解し救急医療体制、病院前救護体制と災害時の活動を学ぶ。	1 年 通 年	60	4	○			○			○	
○			救急医学概論Ⅱ	救急処置の基本を学び、実力を養成する。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			救急症候・病態生理Ⅰ	救急救命士が遭遇する疾患の症状を理解しそれらに対する観察、判断、応急処置を実践できるようにする。	1 年後期	60	4	○			○			○	

○		救急症候・病態生理Ⅱ	救急救命士が遭遇する疾患の症状を理解しそれらに対する観察、判断、応急処置を実践できるようにする。	1年後期	60	4	○			○			○	
○		疾病救急医学Ⅰ	神経系、感覚系、歯・口腔系、呼吸系、循環系等の分野において、救急に関わる疾患を理解する。	1年後期	60	4	○			○			○	
○		疾病救急医学Ⅱ	各分野において、救急に関わる疾患を理解する。	1年後期	60	4	○			○			○	
○		外傷救急医学Ⅰ	外傷は種類、受傷機転、形態、部位等様々であるため、それぞれ特有の診断、搬送時の注意点等を学ぶ。	1年前期	30	2	○			○			○	
○		外傷救急医学Ⅱ	外傷は種類、受傷機転、形態、部位等様々であるため、それぞれ特有の診断、搬送時の注意点等を学ぶ。	1年前期	30	2	○			○			○	
○		環境障害・急性中毒	外界暴露における身体の障害を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○		シミュレーションⅠ	救急救命士に必要な技術を習得する。	1年通年	450	10				○	○		○	
○		シミュレーションⅡ	BLS、ICLS、JPTEC等の訓練を通して技術の向上を図り、多様な現場においても対応できるようにする。	2年通年	450	10				○	○		○	
○		臨床実習	病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深め、救急医療システムを理解する。	2年後期	180	4				○			○	○
○		救急用自動車同乗実習	消防署内での活動を体感することで、消防機関における社会的役割と救急救命士の果たすべき役割を学ぶ。	2年前期	45	1				○			○	○
○		一般知能	専門士としての教養を養う。	2年前期	30	2	○			○			○	
○		教養Ⅰ (自然科学)	専門士としての教養を養う。	2年前期	30	2	○			○			○	
○		教養Ⅱ (社会科学)	専門士としての教養を養う。	2年前期	30	2	○			○			○	
○		教養Ⅲ (総合)	救急救命士として必要な知識を取得し、小論文が作成できるようにする。	2年前期	60	4	○			○			○	

○		災害概論	多数傷病者が発生した際の初動対応について理解を深める。	1 年 後 期	30	2	○			○			○
合計				26科目	1995単位時間(83単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件…全科目の単位を履修すること		1学年の学期区分	2期
履修方法…①3分の2以上の出席率 ②定期試験等の結果がC評定以上		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。